

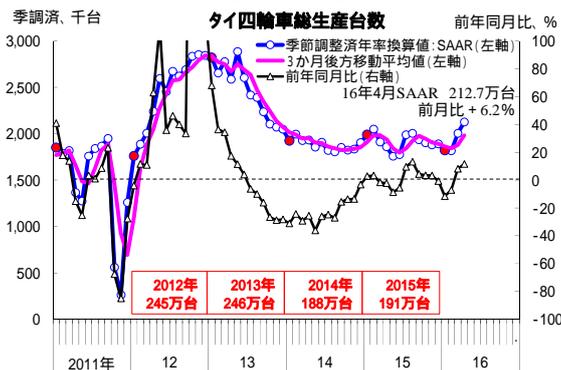
タイ自動車市場月次統計（2016年4月）

4月生産は堅調：新モデル効果に助けられた面もあり市場回復と判断するのは早計

4月生産台数（季調値）は前月比6.2%増の年率212.7万台

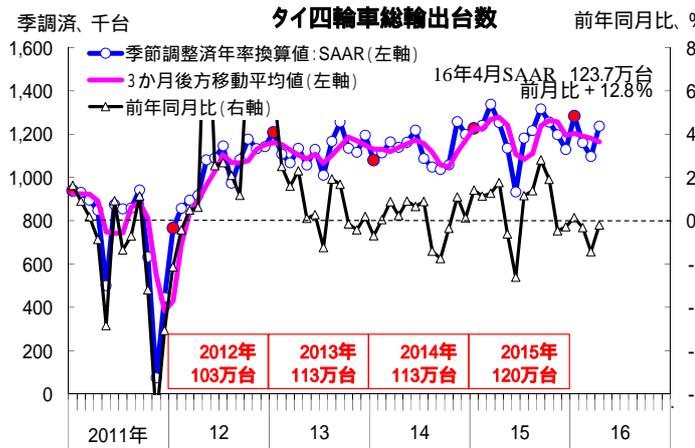
- ・タイ工業連盟（Federation of Thai Industries：FTI）が発表した2016年4月の四輪車総生産台数は、前年同月比11.5%増と2か月連続で前年比プラスとなり、季節調整済年率換算値（当社試算、以下SAAR）も前月比6.2%増の212.7万台と2か月連続で増加した（図表1）。なお、前年同月比で2桁%の増産となったのは、前年4月にトヨタ自動車は翌月の新型ピックアップトラックの生産開始を控え、新旧車種切り替えで工場稼働を抑え生産を落としていたために、今月はその裏が出たことが背景にある。
- ・この2か月の生産増勢の背景には、一部完成車メーカーが新型ピックアップトラック及びPPV（ピックアップトラックベースのSUV）の生産を拡大したことがある。しかし、後述するように、輸出と国内市場を取り巻く環境は厳しく、この新モデル投入効果が長続きすると期待するのは難しい状況である。
- ・4月の総輸出台数は前年同月比2.0%減と3か月連続の前年割れとなったが、SAARは前月比12.8%増の123.7万台と3か月ぶりの増加となった。もっとも、3か月後方移動平均値でみたトレンドは減少基調が続いており、4月のSAARの増加は2月、3月の落ち込みを挽回する程の勢いはなかった。なお、16年1～4月の平均SAARは119万台となり、15暦年（120万台）並みの水準で推移している（図表2）。
- ・4月の国内販売台数は前年同月比1.7%増と4か月ぶりの前年超えとなり、SAARも前月比0.5%増の75.8万台と2か月連続で増加した。（図表3）。税制改正後（1月1日に新自動車税制導入）に落ち込んだ国内販売には持ち直しの動きがみられる。業界では税制改正がどれだけ国内需要の反動減に繋がるかが注目されているが、16年1～4月平均SAARは73.7万台となっており、大手メーカーの16年国内販売見通し（前年比1割減の72万台）に近い台数であったことから、内需減少は想定内の範囲内であったと言えよう。もっとも、国内販売が依然として低水準にあることには変わりはなく、消費者の景況感が悪化している中では、国内販売に対して下方圧力が強い状況が今後も続こう（図表4）。
- ・4月は新モデル投入効果に助けられる形で生産は堅調に推移した。しかし、マクロ経済環境の厳しさから、タイの自動車生産は依然として逆風に直面しており、足元の堅調な生産拡大をみて市場回復と判断するのは早計と考える。

図表1 4月の生産（SAAR）は2か月連続の増加



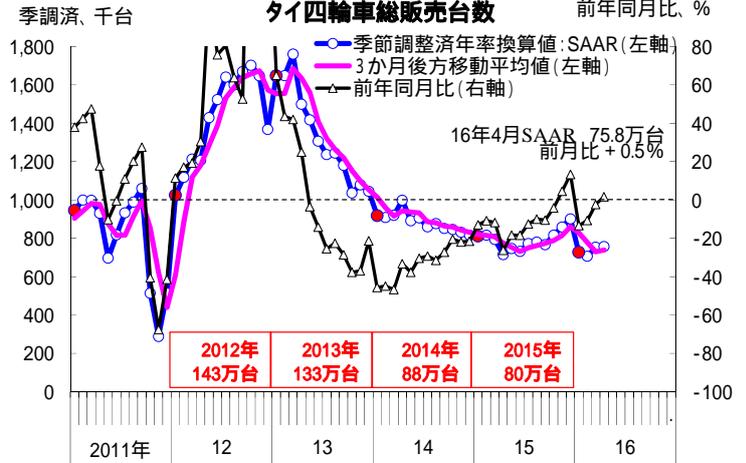
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表2 輸出台数 SAAR は増加したが減少基調が続く



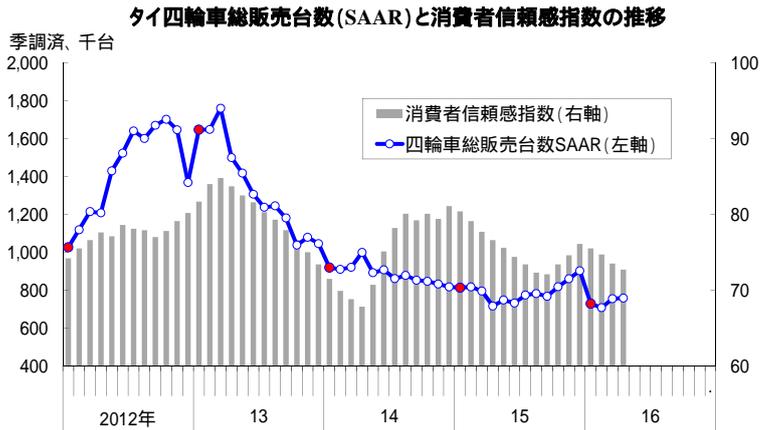
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表3 国内販売は持ち直しの動き



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表4 景況感の悪化が国内販売の足かせに



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Federation of Thai Industries, University of the Thai Chamber of Commerceのデータを基に作成

担当：調査部 産業調査室 深尾三四郎
 Tel: 045-225-2375
 Email: fukao@yokohama-ri.co.jp

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。